

大修館書店『新編 書道 I』準拠シラバス例

教科・科目	書道 I	学科・学年・クラス	科 年次 組
単位数	2 単位	教科書・副教材	書道 I 大修館書店

1 講座のねらい（目標）

書道の幅広い活動をとおして、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会のなかの文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけるようにする。（「知識及び技能」の習得）
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わいとらえたりすることができるようにする。（「思考力、判断力、表現力等」の育成）
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書をとおして心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。（「学びに向かう力、人間性等」の涵養）

(1) の「知識」は単に記憶するものではなく、書の表現や鑑賞の活動をとおして実感的に理解し、汎用的なものとしていくことが大切である。また、「技能」は表現活動において、意図に基づいて構想し表現を工夫するための基礎的な技能を身につけることをねらいとしている。(2) の「思考力、判断力、表現力等」は、書のよさや美しさを感じ、表現や鑑賞の活動の契機とすることが大切である。表現活動においては、知識や技能を得たり生かしたりしながら、自らの意図に基づいて構想して表現を工夫し、鑑賞活動においては、知識を得たり生かしたりしながら、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わいとらえたりすることができるようにすることをねらいとしている。(3) の「学びに向かう力、人間性等」は、主体的に書の表現や鑑賞の学習に取り組む態度、生涯にわたり書を愛好する心情などを示しており、(1) および (2) の資質・能力を身につけていくなかで、一体的に育成していく。

2 授業の内容と学習法

芸術科「書道 I」の内容は「表現」と「鑑賞」に大別され、両者は相互に密接な関連を図って展開し、幅広く書に関わる資質・能力を育成することとしている。また、書は言葉を書き記す芸術であるから、時間性や運動性を持ち、書を構成する要素のはたらかによる独自の表現性を有している。また、〔共通事項〕は「表現」及び「鑑賞」の学習において、共通に必要な資質・能力であり、書に関する見方・考え方を働かせ、「表現」及び「鑑賞」の学習をとおして一体的に育成されることが重要である。書は視覚芸術であり、造形性や空間性を併せもっている。これらの書の特質や書的美をとらえて表現したり鑑賞したりするうえでの観点を十分に意識しながら学習を進めていく必要がある。

- (1) 「表現」は「漢字仮名交じりの書」「漢字の書」「仮名の書」の三分野から構成されている。「漢字仮名交じりの書」は、漢字仮名交じり文という日常的な表記を用いることから、芸術的な表現とともに実用的な表現も含まれており、中学校国語科書写との関連を図ることが重要である。「漢字仮名交じりの書」では、言葉の選定、意図に基づく構想、名筆や現代の書の表現をふまえ、漢字と仮名の調和を図るとともに、表現の工夫を重ねながら作品を練り上げていく。また、「漢字の書」「仮名の書」においては、古典の名跡をもとに習う臨書活動を中心に展開していく。古典の書風を直感的にとらえつつ、用具・用材と表現効果の関わり、書体・書風と用筆・運筆との関わりを理解し、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけていくようにする。「表現」においては、見通しをもって学習に取り組み、意図に基づく作品の構想と表現の工夫、完成作品に至るまでの学習過程を振り返り、自己課題を確認しながら次の学習活動へと展開していくことが重要となる。
- (2) 「鑑賞」は表現されたものの特性、表現効果、価値などを美に対する感受性や知的理解の面から味わうことである。「書道 I」においては、書の表現の方法や形式、多様性などについて理解したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わいとらえたりしていく。生徒一人ひとりの第一印象による直感的把握を大切にし、各人が感じ取った作品や古典の印象を言葉で表現し、他者に伝えあったりする言語活動の充実を図るとともに、その書的美をもたらし根拠や価値を考えていく。また、生活や社会における書が果たしている役割についても考えていく。鑑賞にあたっては、教科書のほか、真跡・拓本・複製や印刷図版、また ICT を効果的に活用して作品を提示することや、地域の文化財や美術館などを利用することで、主体的に鑑賞する姿勢を身につけるようにしていく。
- (3) 「表現」と「鑑賞」の相互関連を図り、上記に示す学習活動をとおして、書道ならではの見方・考え方を身につけられるように指導を工夫することが求められる。

3 履修上の注意点

書の表現や鑑賞の学習を進めていく上で、自らの感性をはたらかせることを大切にしたい。また、書のよさや美しさを感じ、生活や社会における文字や書、書の伝統と文化と豊かに関わっていくようにしていきたい。

「表現」における古典の臨書活動では、それぞれの古典がもつ特徴をとらえ、効果的に表現する技能を身につけていく。臨書活動にあたっては、古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解するとともに、自己の課題を明確にしながら、主体的に技能を身につけていく習慣を身につけたい。

作品の制作活動においては、詩文などの言葉の選定や「今、自分は何を表現したいか」という意図を大切にしたい。自身の表現の意図に基づいて構想し、用具・用材などを積極的に選択し、表現の工夫を重ねていくことで作品を練り上げていくことが大切である。書の表現や鑑賞の幅広い活動をとおして、自らの学習の成果を実感するとともに、書を学ぶことの意義や価値を自覚し、書ならではの見方・考え方を身につけ、これからの学習や生活のなかで生かすようにしたい。

また、他者との対話的な学びをとおして、書道ならではの見方・考え方を身につけるようにしたい。

4 学習計画および評価方法等

[1] 学習計画等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 (学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習の時間・特別活動等との関連など)	考查範囲
一 学 期	<p>書之美を求めて 書の芸術性</p> <p>書の学び方 臨書と倣書 鑑賞の方法</p> <p>一 漢字の書の学習 書体の変遷 拓本と碑について</p> <p>一 楷書の学習 さまざまな楷書</p> <p>唐の四大家 ■九成宮醴泉銘／孔子廟堂碑 ■雁塔聖教序／顔氏家廟碑</p> <p>北魏の書 ■牛橛造像記／鄭羲下碑</p> <p>二 行書の学習 行書の特徴 行書の変遷</p> <p>王羲之と顔真卿の行書 ■蘭亭序 ■祭姪稿</p> <p>王羲之を学んだ名家</p> <p>日本の行書 ■風信帖 ■三筆、三跡の書</p> <p>身のまわりの書 1</p>	4	<p>書道の学習を始めるにあたり、書の特質や学習の全体像を把握します。 表現（臨書と創作）と鑑賞の相互関連など、書の学び方について理解します。 臨書の種類とその意義を確認し、倣書について理解し、創作活動への展開の可能性について考え、書の鑑賞の方法について理解します。</p> <p>漢字の書の学習を進めるにあたり、書体の変遷や拓本についての理解を図ります。</p> <p>さまざまな楷書古典を鑑賞し、そのよさや美しさ、書風を直感的にとらえ、作品の価値や根拠について考えます。</p>	<p>中学校までの書写の学習で身につけている内容を確認し、芸術科書道と国語科書写の関連を確認します。</p> <p>世界史の学習に関連します。</p>	一 学 期 末 考 査
		5	<p>漢字の楷書の古典に基づく学習により、書の多様な表現の可能性にふれます。 代表的な楷書の古典を鑑賞し、それぞれの古典について、作者や時代背景などの知的理解を図ります。</p>	<p>各自の個性を生かすことのできる古典を選択して集中的に学習します。</p>	
		6	<p>各楷書の古典を字形の特徴と用筆・運筆との関わりからとらえ、臨書活動をとおして、意図に基づいて表現するための基礎的な技能を身につけます。</p> <p>楷書と比較しながら、行書の特徴を理解します。 行書の変遷について理解します。</p>	<p>実用性と芸術性という行書の二つの側面を理解します。 世界史の学習に関連します。</p>	
		7	<p>代表的な行書の古典を鑑賞し、それぞれの古典について、作者や時代背景などの知的理解を図ります。</p> <p>各行書の古典について、字形の特徴と用筆・運筆との関わりからとらえ、臨書活動をとおして、意図に基づいて表現するための基礎的な技能を身につけます。</p> <p>身のまわりに見られるさまざまな書にふれることをとおして、楷書や行書以外の書体についても目を向けられるようにします。</p>		
<p>【課題・提出物等】</p> <p>1 毎時間の学習内容は「学習記録」に記録します。</p> <p>2 提出前の途中経過（制作の初期段階の作品から、意見交換した作品、完成作品など）を記録としてファイルし、ポートフォリオを作成します。（デジタルポートフォリオとして整理することも考えられる。）</p> <p>3 単元ごとに「学習記録」とファイルをもとに「学習のまとめ」を行い、学習を振り返り自己評価します。</p> <p>4 課題に応じて作品やワークシート等を提出します。</p>					
<p>【一学期の評価方法】</p> <p>1 提出作品、学習過程、「学習記録」等による学習過程、「学習のまとめ」の内容、期末考查を中心に、用具・用材の扱いを含め、主体的に学習に取り組む態度も含めて総合的に評価します。</p> <p>2 学期全体の評価は、各単元における評価をもとに総合的に評価します。「知識・技能」をワークシートや提出作品、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」をワークシートや活動の様子、「学習記録」による学習過程と「学習のまとめ」により、学習の実現状況を把握して評価します。</p>					

二 学 期	<p>三 篆書の学習 ■泰山刻石</p> <p>四 篆刻・刻字の学習</p> <p>篆刻の学習 いろいろな姓名印 篆刻の用具・用材 文字の配列 印稿例 刻る手順 刻字の学習 書と刻字 刻字の用具・用材と手順</p> <p>身のまわりの書2</p> <p>五 隷書の学習 ■曹全碑</p> <p>六 草書の学習 ■書譜</p> <p>漢字の書の制作 制作の手順 書の鑑賞形式 漢字の書の鑑賞</p> <p>落款の書き方</p>	9	<p>篆書、隷書、草書の学習については、生徒の特性等を考慮して学習します。また、篆刻・刻字については、生徒の興味や関心をふまえ、可能な限り扱うようにします。</p> <p>篆書の学習は篆刻と関連づけて指導することで、学習の幅を広げ深めることができます。隷書については文字の点画構造が楷書に近く、双方の書体への理解が深められます。草書は「仮名の書」の学習での理解を深めることにもつながります。これらの五つの書体を扱うことで、総合的に書についての理解を深めることにつながりますが、「書道Ⅰ」では基礎的な楷書や行書の学習を充実するようにします。</p> <p>生活や社会における書を再認識し、その意義や效用を考え、そのよさや美しさを味わってとらえます。</p>	世界史の学習に関連します。
		10	<p>漢字の書の制作では、意図に基づく構想と表現の工夫について学習していきます。</p> <p>書の鑑賞形式、さまざまな漢字の書の鑑賞、身のまわりの書について理解を深めます。また、生活や社会における漢字の書の広がりにつまびらかにふれます。</p>	詩句や古典の選択により各自の個性を發揮します。
	<p>二 仮名の書の学習</p> <p>仮名の成立と種類 姿勢・執筆 用具・用材とその扱い方 基本的な筆使い 平仮名 変体仮名 連綿</p> <p>■蓬萊切</p> <p>■高野切第三種</p>	11	<p>我が国独自の仮名の書の芸術的な味わいや雰囲気を感じ取り、その成立過程や仮名の種類、字源について理解していきます。</p> <p>仮名の書特有の用具・用材と基本的な筆使いを学びます。</p> <p>平仮名の単体、変体仮名、連綿の筆使いに慣れ、基本的な用筆法を習得します。</p>	漢字の草書体から平仮名への発展は国語・日本史の学習に関連します。
	<p>散らし書きの美</p> <p>仮名の書の制作 全体構成の工夫</p> <p>大字による表現と鑑賞</p> <p>料紙の美 料紙を作ってみよう</p>	12	<p>上代様の仮名の鑑賞をとおして、そのよさや美しさを感じ取り、書風を直感的にとらえ、作品の価値やその根拠について考えます。また、臨書活動をとおして、筆使いに慣れ、基礎的な表現の技能を身につけます。</p> <p>散らし書きの美を鑑賞し、日本独自の全体構成について理解を図り、臨書活動をとおして表現の技能を身につけます。</p> <p>仮名の書の制作をとおして、意図に基づく構想と表現の工夫について学習していきます。</p> <p>仮名の書に用いられてきた美しい加工を施した料紙の美について理解を深めます。</p>	仮名独自の美しさを感受し、国語科の古典の学習との関連を図ることが可能です。
	<p>【課題・提出物等】</p> <p>1 毎時間の学習内容は「学習記録」に記録します。</p> <p>2 提出前の途中経過（制作の初期段階の作品から、意見交換した作品、完成作品など）を記録としてファイルし、ポートフォリオを作成します。（デジタルポートフォリオとして整理することも考えられる。）</p> <p>3 単元ごとに「学習記録」とファイルをもとに「学習のまとめ」を行い、学習を振り返り自己評価します。</p> <p>4 課題に応じて作品やワークシート等を提出します。</p>			

三 学 期	三 漢字仮名交じりの書の学習 言葉を表現する 漢字仮名交じり文の成立とその書の変遷 漢字仮名交じりの書の鑑賞 感動や思いを表現しよう 言葉を考える 作品の表現意図を考える 名筆に学ぶ表現の工夫 全体構成の工夫 用具・用材の工夫 鑑賞会を行おう 書を生活の中で生かしてみよう 姿勢・執筆 用具・用材 書式の教室 書道史略年表 博物館や美術館に行ってみよう 日本・中国書道史参考地図 書道用語集	1	これまでに学習した漢字および仮名の古典の学習をもとに、その表現を応用した漢字仮名交じりの書の制作を行います。 漢字仮名交じり文の成立について理解を図ります。 自らの感動や思い・感慨に応じて詩文を選定します。また、作品の表現形式を決めた上で、詩文を選定する場合があります。 意図に基づいて構想し、用具・用材、全体の構成など工夫し、漢字と仮名の調和の方法を考えて表現していきます。	1年間の学習のまとめとして自己を主体的に表現することに取り組みます。	三 学 期 期 末 考 査
		2	表現の工夫にあたっては、名筆や現代の書の表現を参考として表現を深めていきます。他者との意見交換をとおして、表現を練り上げ作品を完成させていきます。		
		3	作品の鑑賞会を行い、それぞれの作品のよさや美しさについて話し合います。		
			表現の「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」及び鑑賞の各単元の学習内容と関連づけて適宜、活用します。		
【課題・提出物等】 1 毎時間の学習内容は「学習記録」に記録します。 2 提出前の途中経過（試書・中間まとめ・添削を受けたもの等）を記録としてファイルします。 3 単元ごとに「学習記録」とファイルをもとに「学習のまとめ」を行い、自己評価します。 4 課題に応じて作品を提出します。					
1 提出作品、学習過程、「学習記録」等による学習過程、「学習のまとめ」の内容、期末考査を中心に、用具・用材の扱いを含め、主体的に学習に取り組む態度も含めて総合的に評価します。 2 学期全体の評価は、各単元における評価をもとに総合的に評価します。「知識・技能」をワークシートや提出作品、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」をワークシートや活動の様子、「学習記録」による学習過程と「学習のまとめ」により、学習の実現状況を把握して評価します。					

確かな資質・能力を身につけるためのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・書道の学習においては、感性をはたらかせて、直感的に作品のよさや美しさをとらえることが重要です。対象となる作品や古典に素直な気持ちで向かいましょう。 ・古典の書風や作品を用筆・運筆、字形、全体の構成からとらえ、その書風をもたらし根拠を考えるようにしましょう。 ・表現の技能の習得は、主として古典の臨書によりますが、ただ枚数を重ねるのではなく、1枚ごとに自分の解決すべき課題や問題点を見きわめ、それを解決するように学習を進めることが大切です。そのために「学習記録」は丁寧に書き、学習過程を振り返ることができるようにしておきましょう。 ・制作については「今、自分は何を表現したいか」という表現の意図を大切に、詩文の選定、用具・用材を選択し、作品を構想し表現を工夫していきましょう。
授業を受けるにあたって守ってほしい事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はチャイムと同時に始めますので、用具を準備し着席を完了させて下さい。 ・用具は大切に扱い、特に、筆と硯はきれいに洗いましょう。 ・作品やワークシート等はファイルにきちんと整理しておきましょう。

〔2〕 評価の観点、内容および評価方法

学習の実現状況は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点で評価する。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 【知識】	【知識】 ・ 作品ファイル ・ ワークシート ・ 「学習記録」による学習過程 ・ 定期考査
	書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ、表している。 【技能】	【技能】 ・ 提出作品 ・ 作品ファイル ・ ワークシート ・ 「学習のまとめ」の内容
思考・判断・表現	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書之美を味わいとらえたりしている。	・ 提出作品 ・ 活動の様子 ・ 「学習記録」による学習過程 ・ 作品ファイル ・ ワークシート ・ 「学習のまとめ」の内容 ・ 定期考査
主体的に学習に取り組む態度	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。	・ 活動の様子 ・ 提出作品 ・ 作品ファイル ・ ワークシート ・ 「学習記録」による学習過程

(1) 「知識・技能」の評価について

書道の学習の過程をとおした知識及び技能の習得状況の評価する。また、すでに身につけている知識及び技能と関連づけたり、活用したりするなかで、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念を理解したり、技能を習得したりしているかも評価していく。各授業のなかでは、「知識」「技能」の習得状況を学習活動に応じて個々に評価していくが、学期末には「知識・技能」としてまとめて評価していくことになる。

「知識」は、表現及び鑑賞の両方の活動において評価し、書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解しているかを、ワークシートや学習の記録等から評価していく。

「技能」は、表現活動において、書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身につけているかを、提出作品や作品ファイル、活動の様子等から評価していく。

(2) 「思考・判断・表現」の評価について

書道における知識及び技能を活用して課題を解決するための思考力、判断力、表現力等を身につけているかを評価する。

表現活動では、書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫しているかを、ワークシートや学習記録、活動の様子、作品等から評価していく。

鑑賞活動では、書のよさや美しさを感じ、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書之美を味わいとらえているかを、ワークシート、学習記録、活動の様子等から評価していく。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

書道の表現及び鑑賞の活動において、知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学ぼうとしているか、評価する。一定の学習のまとまりのなかで、表現と鑑賞ごとに評価するが、学期末には一体的に評価していく。

表現活動では自身の活動を振り返りながら試行錯誤を繰り返し粘り強く学んでいる様子や、構想を練り直したり表現の工夫を重ねたりしている過程を活動の様子や学習記録等から評価していく。

鑑賞活動では、作品のよさや美しさを感じ、分析的に作品をとらえようとし、書の伝統と文化の価値について主体的に考えたり、生活や社会における文字や書の意味や価値を考え、見方・考え方を広げたりしているかを、活動の様子や学習記録から評価していく。

〔3〕 担当者からのメッセージ

<ul style="list-style-type: none"> ・「何ができるようになったか」を大切にしたいと思います。各授業、単元、学期、そして、1年間の学習をとおしての知識の習得や技能の向上、作品の構想や工夫の深化が感じられるような学習への取り組みをして下さい。 ・一人ひとりの個性を生かし、これを伸ばしていくことを学習の第一目標としています。それぞれが感性を働かせて、自分の意図に応じて、作品を構想し、表現を工夫し、主体的に作品を完成させる醍醐味を味わってほしいと思います。 ・鑑賞活動では、作品のよさや美しさを感じ取り、対話的な学びをとおして、それぞれの考えや思いを共有することが大切です。 ・「書道Ⅰ」の学習をとおして、書道ならではの見方・考え方を身につけ、生涯にわたり書を身近な存在として感じられるようになってほしいと思います。
